

第7回毎日国際交流賞(毎日新聞社主催)は、先の社告の通り、アジア14カ国の医師が安心して医療を受けられる健康福祉のネットワークづくりを旨とする「アジア医師連絡協議会(AMDA)」本部・岡山市、喜放茂代表(48)と、教育制度が未整備の途上国で絵本や人形劇を使った「お話」を実践、教育環境の改善に大きな功績を残した財団法人「おはなししゃらばんセンター」常務理事、石竹光江さん(63)＝東京都東村山市＝に決まった。表彰式は10月21日、大阪市北区の毎日新聞大阪本社内で行われる。AMDAと石竹光江さんの国際交流の現場を訪ねた。(大阪社会部・亀井正明、写真も)

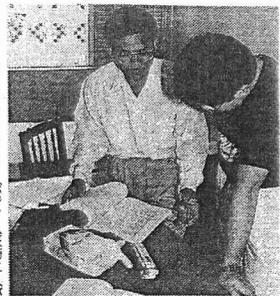


アジア医師連絡協議会

受賞者
一、アジアを国々の地域医療、ルワンダ難民への緊急救援医療などの活動
アジア医師連絡協議会(AMDA) 岡山市
賞金 金五〇万円
一、タイ、カンボジアなどを主供向の「お話」活動、教育者育成など
石竹光江さん(東京都東村山市)
賞金 金五〇万円

市民レベルの国際協力、国際交流を支援し、日本人の国際理解をより深めることを目的に、1989年、毎日新聞大阪本社新社屋竣工を記念して本社が創設した(後援・外務省、協力・株式会社クボタ)。
対象は、国内外でのユニークな国際交流、協力、援助活動に実績のある市民団体、または個人。全国の自治体などからの推薦に基づき、選考委員会が審議し決定した。
選考委員長一徳辺武(元アジア開発銀行総裁)▷選考副委員長一島増(大阪国際交流センター会長)▷選考委員一須之部三三(杏林大客員教授、元外務事務次官)、陳舜臣(作家)、佐々木高明(国立民族学博物館長)の名氏と齋藤明(毎日新聞社主筆)

受賞理由
「国境なき医師団」(フランス)のアジア版を目指す国際社会の動きに敏感に反応、機動力あふれる医療救援活動を確立しつつある。カンボジアやルワンダなどアジア、アフリカでの難民救済や、バングラデシュの大洪水、サハラ地帯など自然災害における医療支援などで着実に実績をあげた。今年1月の阪神大震災でも、行政機関が機能大



精神科医のサンボウナットさん(左)と打ち合わせする岩間さん＝ブノムスロイ郡病院で

ブノムスロイ郡病院
「おはなし」子供は元気になたが、早期から村人の助、声も響く。
カンボジアの直轄「メン」が南西に約十、コンボント州のブノムスロイ

ポシアン医師二人が飛来した。現地の医師三人がサポート勤務しており、月曜から金曜までの前中、内外へ産
精神科医のサンボウナットさん(左)と打ち合わせする岩間さん＝ブノムの国立シアヌーク病院で

国立シアヌーク病院
「ポル」ポト時代も悲惨なことが、今も残る。UNTは「O」国連のポシアン医師を
運送し、命を害す人

開説された。急激な社会状況の変化で、心の病に悩む人が増える中、大きな期待を受けての精神科だ。
壁の色は精神衛生に良いとされ、窓はついでにエントランスの備も新しいものに替えられた。心配りされた。診察室に入ら患者も部屋から出て、いろいろな話で清潔な環境に生まれ変わった。ここは以前から精神科の専門トレーニングを受けながら、

病院が生まれ変わった

信頼を礎に心身支え

郡病院、午前七時前から「ルモッ」と呼ばれる大型の「リヤカー」に乗って、郡内各地から患者が次々と集まって来る。数年前まで、週間に三五人程だったのが、最近は一日に百人以上、二、三ヵ月と膨らんでいく。この中には、年よりの女性患者も多かった。



母子を診察するAMDAの女性医師(左)＝ブノムスロイ郡病院で

活動の足跡
AMDAの原点は一九七九年、カンボジア難民キャンプに西日本アジア医学士連絡協議会から派遣された代表茂さん(現AMDA代表)と、自国医師、患者の活動がある。当時、私生活が忙しかつた。と、言葉に活動の受け皿の必要性を痛感。アジア各国で友人関係を広げ、情報収集を受け皿の拠点を作ろうとの思いが、八四年のAMDA設立につながった。

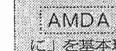
若手医師らでネット広げる
日本国内に住む外国人をも忘れていない。東京と大阪にAMDAが開設されている国際医療情報センターは、言葉の問題から満足な医療を受けられない日外国人から高い評価を得ている。東京大阪で八カ国語の医療相談窓口を開き、年間の受け付け相談件数は千件以上の増加。

カンボジアからの報告
AMDAがこの病院でプロジェクトを始めたのは一九九二年一月。当時は貧乏病棟で、な医師が病院にいない。看護士、婦が応急処置をするだけだった。もう一つ、患者などほとんど来ない。病院はほろほろと壊れていった。院長は看護士もあつた。チーム、チュアンさん、おはなしを振り回した。今は病院にAMDAのカン



母子を診察するAMDAの女性医師(左)＝ブノムスロイ郡病院で

「優れた医療で、より良い未来をアジアに」を基本理念に、カンボジア難民キャンプで共に活動した若手医師と学生が中心となって1984年に設立。アジア各国での地域保健医療活動の



「優れた医療で、より良い未来をアジアに」を基本理念に、カンボジア難民

は、ルワンダ難民や阪神大震災、サハラ地帯の医療支援などを展開、大きな実績をあげた。会員は国内400

人、海外200人。〒701-12 岡山市中津区1-10-1。☎086-284-7730。F.A. X086-284-8758。